

# 大関

第628号

2022年に  
大学昇格100年を迎えます

2022年3月15日発行  
奇数月15日発行 関西大学校友会

Be Proud! All KANDAI

YOSHIMOTO 109th

ひととかかわるいふで  
人生は潤っていく



山里 亮太さん  
南海キャンディーズ  
(2001年 文学部卒業)

YOSHIMOTO

# コロナ禍の農家と企業を繋ぐ挑戦

## 「シェアベジ」によるフードロス削減とSDGs推進

商学部3年次生/株式会社岩本明憲研究室(岩駒屋) 佐藤穂高・益田寛之

### Q「岩駒屋」はどのような団体ですか？

A. 関西大学商学部の岩本ゼミに所属する学生と、株式会社プロアシスト(社長:生駒京子さん、関西経済同友会代表幹事)が産学連携でプロジェクトを行っている団体です。



岩駒屋メンバー

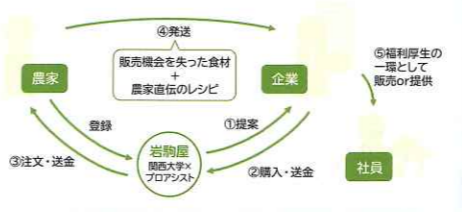


株式会社プロアシスト様との会議の様子

### Q「シェアベジ」について教えてください

A. 農家と企業を繋ぐ新しい福利厚生型のビジネスです。現在、新型コロナウイルスの感染拡大によって、多くの農家が販売機会を失っています。つまり、本来であれば消費されていたはずの野菜が廃棄されてしまっている状況です。そのため、長年にわたるフードロスが問題とされていることに加え、新型コロナウイルスの影響でさらに問題が広がっているのです。そこで、私たち学生が農家と企業を繋ぎ、野菜の新しい消費の場を創出しようと考えました。企業側は、福利厚生の一環として、農家から購入した野菜を低価格で販売、あるいは社員に無料提供できます。

このビジネスは、かかる全てのの人にメリットがあります。農家は新しい販売機会を獲得することにより、野菜のロスが減らすことができます。企業は、SDGsに取り組んでいる産学連携活動



行っていることが、イメージアップや大学生への知名度向上に繋がります。また、福利厚生の拡大により、おうちごはんの充実や新たなレシピの習得など、社員の満足度を上げることができます。このように、全ての関係者にメリットがあり、フードロス削減という社会問題解決やSDGsへの貢献に寄与します(SDGs No. 12「つくる責任つかう責任」とNo. 17「パートナーシップで目標を達成しよう」)。

### Q「シェアベジ」を始めたきっかけは何ですか？

A. 始めたきっかけは主に2つあります。1つ目は、先ほども記したように新型コロナウイルスの影響です。コロナ禍で飲食店が営業停止したことにより、そこに野菜を卸していた農家の販路がなくなり、生産した野菜が余ってしまうという状況でした。また、野菜が余っているだけでなく農家の収益がなくなるとい問題もありました。そこで、農家の販売機会を創出しようと思った訳です。

2つ目はSDGs推進への貢献です。SDGsという言葉が社会にも広まっていき、これに取り組み団体や企業は増えてきています。大学生である私たちも同様に取り組むことで、SDGsの認知度を高め

アシスト様や関西大学の職員の皆さまから助言をいただいたりしながら、昨年の7月頃に、ようやく初めて野菜を出荷することができました。無事に野菜が購入者の手元に届き、野菜を調理した写真を送っていただいたときの感動は、いまでも忘れることはできません！問題はたくさんありましたが、メンバー全員と頑張ってきたよかったです。

### Qこの活動で、大切にしていることは何ですか？

A. ビジネスといえど、私たちは関西大学商学部岩本ゼミの学生です。そのため、常に、「学生だからできること、学生にしかできないこと」を考えながら活動しています。その1つとして、私たちのビジネスの1番の目標は、多くの利益を上げることではなく、フードロス問題の解決とコロナ禍での農家の支援、としています。もちろん活動を続けるためには費用が必要になるので、シェアベジで野菜をご購入いただいた方には料金をいただいています。しかし、それは12月に関西大学で行われたSDGs WEEKSのイベント費用に充てたり、新たな農家を見つけ出す際に係る経費などに使用したりしています。私たちが取り組む問題を解決するため

には、こうした地道な活動の積み重ねが不可欠だと考えています。先日、シェアベジを導入していただいたクリエイティブ(クリエイティブ株式会社・ダイドレ株式会社)さまからは、「会社を通じて商品を購入した社員にはSDGsバッジを配付している」という連絡がありました。社員の皆さまに私たちの活動を通してSDGsを身近に感じてもらう。そして、農家の皆さまは新たな販路を創出することができる。これこそが、私たちが活動始めて以来めざしてきた姿です。

私たちの活動を通して、SDGsを少しでも多くの方に知ってもらい、「ジブンゴト」として考えてもらおう。同時に農家の手助けにもなる。これらの実現に向け、日々取り組んでいます。

### Q今後の展望を教えてください

A. まずは、この事業を拡大していきたいと思っています。具体的には、農家の登録件数と企業の契約件数の両方を増やしていきたいと考えています。シェアベジはまだまだ始まったばかりの取り組みですが、私たちの予想を超える多くの企業から契約のお声がかかりました。これは本当に嬉しいことなのですが、それと同時に農家の契約件数を増やさなければならぬという問題に直面しました。そのため、これからは契約いただける農家探しを継続的に行う予定です。

また、岩駒屋ではこれまでにシェアベジ以外にもSDGsやフードロス削減に関するいろいろな活動を行いました。1つ目は、11月に大丸須磨店にて開催したマルシェで



マルシェ開催の様子

るとともに、啓蒙活動をできればと考えています。

### Q活動を進めていく過程で、どのような困難がありましたか？

A. 活動当初は困難だらけでした(笑)。フードロス問題の解決とコロナ禍で困っている農家の皆さまを助けたいという思いでこの活動を始めました。しかしながら、私たちはこれまでビジネスをしたことがなかったため、何からスタートすればよいかすら分かりません。さらには、メンバー全員が農業に従事した経験はなく、知り合いに農業に詳しい人がいるという訳でもありませんでした。とにかく右も左も分からない状況からのスタートでした。

その後、システムが一通り完成し、シェアベジを導入してもらうためにさまざまな企業へ伺った際も、説明資料の不足やシェアベジの魅力が伝わらないなど、たくさんのご指摘を受けました。その度に、制度上の未熟さを実感。それでも、フードロス問題の解決とコロナ禍で困っている農家の皆さまを助けたいという気持ちが強く、何としてでもシェアベジを成功させたいという思いで頑張ってきました。

そして、大学で学んだマーケティングや流通の知識を生かしたり、株式会社プロ

### 校友会の皆さまへのメッセージとクラウドファンディングのお願い

校友会の皆さま、いつも関西大学の学生にご支援をいただきありがとうございます。岩駒屋はゆめサポでいただいた支援金によって活動をスタートすることができました。今後もビジネスの難しさを実感しながらも、事業の発展、フードロス削減への貢献をめざして励んでまいります。さらに、関西大学の学生としての誇りを持ち、校友会の皆さまの期待を上回るような努力を続けていきます。

最後にお願ひことにはなりません。現在、岩駒屋では今後の事業拡大のためにクラウドファンディングを行っています。資金の使い道としては、農家探しやSDGs・フードロス削減のための諸活動費などを考えております。フードロス削減、そして私たちがめざす食の在り方の実現のために皆さまのお力添えをどうぞよろしくお願ひいたします。

クラウドファンディングは下のコードを読み取ってください！  
校友の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします！



シェアベジ キャンプファイヤー